



ほけんだより 7月号

北保育園
令和3年7月1日



先月は、RS ウイルス・ヘルパンギーナに感染するお子さんがいました。

保育園では今後も、遊具の消毒や施設内の消毒を徹底していきます。子どもたちの消毒も気を

緩めず取り組んでいきたいと思ひます。

暑い日が続くようになり、熱中症が心配な時期となりました。体が暑さに慣れていない梅雨明

けや急激に温度が上がった日は特に注意が必要になります。普段からの戸外遊びで体を鍛え、喉

がかわいていなくても水分をこまめに摂取するようにしましょう。

歯科検診結果

今年度は昨年度に比べ虫歯のあるお子さんの数が減りました。



今後も食事・おやつ後のはみがきをしっかり行い子どもたちの虫歯予防に努めていきたいと思

います。



プールの事前準備



こんな時はプールに入れません。

- *水着、タオル、下着に名前を書いてください。
- *耳、鼻、喉、目、皮膚の病気は治療を済ませておきましょう。
また、治療中の病気などがあれば、事前にお知らせください。
- *爪を切りましょう。長いと、けがの原因となります。

- ・熱がある。または、前日に熱があった。
- ・鼻水が出ている。
- ・喉やその周りが赤い、喉に痛みがある。
- ・目が赤く充血している。
- ・普段より多く目やにが出ている。
- ・普段より多く耳だれが出ている、耳の痛みを訴える。

ヘルパンギーナ



症状

夏によくかかる、ウイルス性の夏かぜの一種です。喉の痛みを伴う、39℃以上の高熱が2～4日間続きます。喉の奥が赤くなり、小さな水ぼうやかひょうが見られるのがこの病気の特徴です。下痢や嘔吐などの症状が出ることもあります。

家庭での処置

高熱が出るため、脱水症状や熱性けいれんを起こすこともあります。熱性けいれんの既往がなければ解熱剤で一時的に熱を下げてよいでしょう。水分補給をしっかりと行うことも大切です。嘔吐が見られたり、食欲が著しく低下しているようなら、医療機関を速やかに受診しましょう。感染力はそれほど強くなく、1～4日で熱は治まります。

あせも

汗の出る穴が詰まり、皮膚の内側に汗が溜まって炎症が起こる症状で、細かく赤い発疹が出ます。綿などの吸湿性・通気性のある衣服を選んで、汗をかいたらこまめに拭き、衣服を着替えさせるのが一番の予防法です。シャワーや沐浴など、スキンケアで治まることもありますが、かゆみがある時は、冷たいタオルで冷やすなどして、なるべくかかないようにしましょう。ステロイド系の外用薬がひどくなったあせもには有効です。



水いぼ

ウイルスの感染によってできる「いぼ」の一種で、ぶつとした水ぼうやが体全体に散っていることもあれば、部分的に固まって発症することもあります。乾燥肌やアトピー性皮膚炎の人が、かかりやすい傾向にあるようです。時間はかかりますが、自然治癒します。爪を短く切って清潔にしておき、患部をかいいていぼをつぶしたりしないようにしましょう。

夏に多い感染症として、『ヘルパンギーナ』『プール熱』『手足口病』『流行性結膜炎』などがあります。

どれもウイルス感染によって起こる病気です。感染力も強いので、症状がある場合は必ず受診をして医師の診断を受けましょう。